

令和3年度 第4回野洲市社会教育委員会（書面開催） 意見聴取一覧

| ページ番号 | 分野・項目名等                    | 意見・質問等  | 関係課回答・コメント  |
|-------|----------------------------|---|---|
| 1     | P4<br>「人権」課題・検討            | <p>集客できない場合の啓発手法について検討が必要とあるが、令和4年度（P7～9）において、具体的な姿が見えない。例年と同様に思える。</p> <p>【委員長コメント】既存の組織・団体を当てにした、動員型研修では限界が来ている。市民の「主体性」「協働」を意識した「行動型」の人権教育に転換すべきでは。</p>  | <p>【人権施策推進課】<br/>市民の人権意識の高揚を図っていくには、継続的な周知・啓発が重要であると考えており、コロナ禍により集客での啓発事業ができない場合については、単に事業を中止するのではなく、啓発資料の作成・配布やオンライン等による開催、講演の動画撮影及びDVDでの周知などの代替事業を実施していきたいと考えています。また、研修会実施にあたっては、行政主導ではなく主体的に参加していただけたらという内容等の工夫をしていきたいと考えています。</p>                           |
| 2     | P5<br>「人権」実績・評価<br>10行目    | <p>大会はも→大会は新型コロナウイルス</p> <p>【委員長コメント】これからの人権教育の方向性が無いまま、研修を続けても、効果は得られないでしょう。コロナ禍だから、出来ませんでしたでなく、今だからこそ明確にすべきではないか。</p>   |   |
| 3     | P6<br>「地域・学校との協働」<br>実績・評価 | <p>学校応援団（地域学校協働活動）の活動を通して、登下校を含め、子ども食堂や居場所づくりなど、地域の子どもの見守りは地域住民の役割という認識が広がっています。</p> <p>行政の取り組み評価は大事ですが、めざす姿と照らし合わせた時に、その取り組みで、地域差はあっても、市民の行動や地域の空気がどのように変わってきているか、担い手の育成につながっているのか、豊かな地域社会に一步でも近づいているのか、というような成果は、委員会の中だけでも共有しておく必要があると思えました。他の分野についても同じことが言えるのではないのでしょうか。</p> <p>【委員長コメント】学校応援団、地域学校協働活動、学校運営協議会等今後目指すべき方向を、地域は全く認知出来ない。これからの野洲市のあり方を、ビジョン・システム・マネジメントの視点で学校・地域・家庭にどのように周知し、取組を進めていくのか明確にすべき。</p> | <p>【学校教育課】<br/>学校応援団をどのように地域学校協働活動に移行していくのか、学校評議会をどのように学校運営協議会へ移行させるのか、加えて、ご指摘のように規則制定や地域や学校への周知も含めて検討課題が多くあります。</p>  |
| 4     | P7<br>「図書」主な取り組み           | <p>図書館を利用する立場として、昨今の野洲図書館の市民へアプローチは本場に魅力的なものが多いと感じています。このSDGs時代、市民が本や資料を通して、社会的課題について考える機会やきっかけを与えてくださったり、タイムリーな話題に対してもスピーディに対応されている企画や展示が目を引きます。図書館が生涯学習の機会を与えたり、啓発する役割も的確に実践されていると思います。これまでの成果として、また今年度も引き続き、市民が必要とする資料・情報に留まらず、「知る機会」の場であることを望んでいます。</p> <p>図書館における取組は申し分ないが、行政職員がどれくらい図書館を活用し、職務の遂行や、自己啓発に活用しているのか評価をしてはどうか。</p>  | <p>【図書館】<br/>市民の必要とする資料・情報を提供することを目的とする機関としては、蔵書を整備したり要望が寄せられてから応えるだけでは不十分だと考えています。今後も資料のテーマ展示や企画等で、情報発信を行い、知る機会のある場としての役割も果たしていきたいです。</p> <p>行政職員の図書館利用については、まずは図書館の持つ機能について十分な周知を図る必要があります。市職員が業務や自己啓発に活用できる資料の収集をすすめることも、図書館の有効な活用方法についてPRに努めたいと考えております。</p> |

|    |  |   |  |
|----|--|---|--|
| 5  | P7<br>「地域」主な取り組み                               | <p>社会教育委員会の議論の中でも「自治会の中でも、生涯学習についての認識が少ない」というご意見があったかと思えます。生涯学習は、市民が、自治会での様々な役割をはじめ、あらゆる地域の活動に参加されるうえでも、ベースになる部分で、本質にふれることだと思います。なかなか一足飛びでは解決できない課題ですが、生涯学習の根幹部分で、大事な課題です。コロナ禍で益々地域課題が増えている中、「新しいコミュニティづくり」「自治意識の向上」「互助、共助の再構築」に向けて、地域でどのように生涯学習が活かされていくのか、生涯学習や実践している活動の意義や価値を、まずはコミセンを中心に地域のコアな方々で共有する機会、学び機会が検討されることを願っています。また、子育て世代の困りごとや、認知症や孤立などの後期高齢者が増える中、元気な中高年、高齢者が生きがいを持つような活動、経験や学びが、「私のため」→「私たちのため」→「誰かのために」と発展していく仕掛けづくりを考える場も必要だと思います。</p> | <p>【生涯学習スポーツ課】<br/>生涯学習に親しむきっかけづくりの場を提供すべく、生涯学習カレッジや出前講座などの機会提供、情報の周知に努めています。また、市民が生涯学習に参加しやすいよう、開催方法の工夫（オンライン参加や動画配信形式のほか）はもろろん、参加者が気軽に参加・参画していき、地域課題の検討・解決に向けて皆で取り組める仕組みづくりを、市民・地域・市の連携の中で構築していきたいと考えています。</p> |
| 6  | 「人権」主な取り組み                                     | <p>講演会やつどいなどのハード面と合わせて、ソフト面の調整の強化が必要だと思えます。あらゆる人権課題がある中、近年の課題として、「子どもの人権」が侵害される事例も多く、社会の実態や予防について市民に広く知らせられる機会であったり、子どもたちを守る取り組みにつながるようなきっかけづくりに特化した方向に導いていくこと（これもめざす姿に合わせて）も一つの役割だと思えます。</p>   | <p>【人権施策推進課】<br/>昨今の社会情勢の変化に伴いインターネットによる人権侵害や子どもの人権侵害など人権課題も変化し続けており、これらの問題への対応や施策が重要であると認識しております。現状の社会実態を適切に把握するとともに、市民に対して広くかつ迅速に情報提供し、周知・啓発していくことが必要であると考えています。</p>   |
| 7  | P8<br>「地域・学校との協働」主な取り組み                        | <p>子ども教室のように、学校だけでは限られてしまう体験活動を、地域で取り組んで頂く機会があることは、貴重だと思えます。一方で、限られた人数、条件が合う人だけが参加できないという課題もあります。地域の子どもたちにもどのような体験や活動が必要か、学校との情報交換など連携を強化していただき、幅広い参加の機会が与えられるような運営、支援を期待します。</p>   | <p>【生涯学習スポーツ課】<br/>幅広く参加の機会を設けるべく、各地域の特色を活かした体験を子どもたちができるよう、学校と地域をつなぐ機会の設定に努めます。</p>   |
| 8  | 学校図書館について                                      | <p>司書教諭や図書ボランティアが図書室に常駐することによって児童生徒が利用しやすくなり、保健室登校のように図書室登校という不登校解消につながる例もあるのではないかと。</p>  | <p>【学校教育課】<br/>地域学校協働活動の一環として、各校と地域で検討してもらええると思われれます。</p>  |
| 9  | P16<br>「第3次野洲市子ども読書活動推進計画について」学校教育課 課題等        | <p>小中学校には専任の司書教諭がいないので、目標に挙げられていることが難しい。<br/>市として、専任司書を配置するか、市として読書ボランティアの育成と各校への配置などの施策が必要と考える。<br/>【委員長コメント】第3次野洲市子ども読書活動推進計画が、学校に周知できていないのが現状。周知し取組が広がるビジョンやシステムを構築すべきでは。</p>  | <p>【学校教育課】<br/>学校司書の配置については、財政的な問題もあり、難しい部分があります。地域学校協働活動の一環で地域人材の活用を検討する必要があると思われれます。</p>   |
| 10 | P22<br>「第3次野洲市子ども読書活動推進計画」学校教育課 実現のための取り組みについて | <p>学校教育課の2022年の目標に挙げられているが、学校にお任せは難しい。</p>  | <p>【学校教育課】<br/>読む子と読まない子の二分化が当面の課題です。</p>  |

|    |                             |   |   |
|----|-----------------------------|---|---|
| 11 | P22<br>「野州市子ども読書活動<br>推進計画」 | <p>読書活動推進のボランティア活動をする中で、最近保護者の方々のお話を聞くと「学校の図書室に行ったことがない」「一度見てみたい」「どんな本が人気なんだろう」という声をよく耳にします。子どもたちが普段学校でどのように図書室を利用したり、どのような本に興味があるのか、知らせる機会が必要だと感じており、次年度の計画に入れる準備をしています。地域ボランティアが読み聞かせや、蔵書や書架の整理にとどまらず、家庭と学校のパイプ役になることも役割としてしている部分もあります。</p>                                   | <p><b>【学校教育課】</b><br/>かつての学校図書館は校内の情報センターとしての役割があり、児童生徒の「調べ学習」の拠点でした。ここでは、調べたい情報はどの本にあるのかを子どもたちに示せる司書の役割も大きかったです。しかし、インターネットの普及に伴って、その役割はコンピューター室にとって代わられ、学校図書館の役割も変わってきました。そういう状況で野洲図書館と学校図書館の連携（蔵書の揃え方等）も含めて考えていく必要があります。</p> <p><b>【生涯学習スポーツ課】</b><br/>子ども達にとって学校図書館は一番身近で利用しやすい図書館であり、家庭における読み聞かせについても親子間のコミュニケーションという観点から重視される部分です。関係課の協力を仰ぎ、図書館・読書ボランティアの方々・学校・子ども課それぞれがもつ課題を共有し連携を取る仕組みを作りたいと考えています。</p> |
| 12 | 地域の教育力について                  | <p>コロナの影響で地域の絆が弱くなっているのではないかと。自治会、子供会、老人クラブなど活動が激減していると思われる。やむを得ないとは思いますが、今後どうすればいいか考える必要がある。</p> <p><b>【委員長コメント】</b> コロナ禍も含め、既存の組織・団体の形骸化、目標の無さから衰退傾向に有り、今後の社会教育のあり方は様変わりしていくと考えられる。もう少し視点を変えてテーマコミュニティ（テーマや価値を共有し、地域の概念を外した小グループでの活動）等のグループ形成に着目し、再度市のビジョンをし見直す必要があると考える。</p> |   |
| 13 | 計画全般について                    | <p>各課がそれぞれ事業に取り組んでいるが、バラバラに動くのではなくもっと横の繋がりが、連携を重視するべき。</p> <p><b>【委員長】</b> 次世代育成のために、これからの野洲市の現状を想定して計画を策定すべきでは。</p>  |   |